

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成23年11月14日
【四半期会計期間】	第17期第3四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）
【会社名】	アップルインターナショナル株式会社
【英訳名】	APPLE INTERNATIONAL CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 埴原 明彦
【本店の所在の場所】	三重県四日市市日永二丁目3番3号
【電話番号】	059(347)3515
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部長 近藤 則明
【最寄りの連絡場所】	三重県四日市市日永二丁目3番3号
【電話番号】	059(347)3515
【事務連絡者氏名】	取締役 管理本部長 近藤 則明
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第3四半期連結 累計期間	第17期 第3四半期連結 累計期間	第16期 第3四半期連結 会計期間	第17期 第3四半期連結 会計期間	第16期
会計期間	自平成22年 1月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 1月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 1月1日 至平成22年 12月31日
売上高(千円)	27,295,435	21,445,114	6,185,549	6,346,497	34,376,619
経常利益または経常損失() (千円)	296,876	215,527	262,135	329,444	184,253
四半期(当期)純損失() (千円)	1,187,837	494,411	957,078	308,928	1,604,082
純資産額(千円)			6,829,192	5,813,078	6,190,079
総資産額(千円)			15,654,055	14,133,752	14,866,327
1株当たり純資産額(円)			45,914.77	40,078.04	44,210.04
1株当たり四半期(当期)純損失 金額()(円)	9,532.13	3,967.54	7,680.35	2,479.09	12,872.41
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)					
自己資本比率(%)			36.6	35.3	37.1
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,177,802	101,683			1,993,816
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	2,585,695	425,377			3,341,412
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	343,428	471,531			13,842
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)			1,834,309	1,718,481	1,529,628
従業員数(人)			301	333	310

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

（1）連結会社の状況

平成23年9月30日現在

従業員数（人）	333
---------	-----

（注）従業員数は就業人員であります。

（2）提出会社の状況

平成23年9月30日現在

従業員数（人）	10（1）
---------	-------

（注）従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当第3四半期会計期間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

該当事項はありません。

(2) 仕入実績

当第3四半期連結会計期間における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)	
	金額(千円)	前年同四半期比(%)
日本	1,808,229	
中国	3,419,032	
合計	5,227,262	

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注実績

受注後売上計上が概ね1ヶ月以内であるため、記載を省略しております。

(4) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)	
	金額(千円)	前年同四半期比(%)
日本	2,253,994	
中国	4,092,503	
合計	6,346,497	

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 前第3四半期連結会計期間および当第3四半期連結会計期間における主な販売先は、当該割合の100分の10以上の会社がないため記載を省略しております。

2【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、本年3月に発生した東日本大震災により一時停滞しておりますが、サプライチェーンは回復しつつありますが、米国の景気後退懸念、ギリシャ問題に端を発したユーロの財政問題、また、それらから派生した更なる円高の進行により、本格的な景気回復には時間を要するものと考えられます。

このような状況の中、当社グループは、従来と同様、自動車市場が急激に拡大する中華人民共和国（以下「中国」という）を中心に東南アジア諸国およびその周辺国において、主に欧州メーカーブランドの商品によって多国間の貿易ルートを確保することにより自動車市場の流通の活性化と収益拡大に努めてまいりました。

上記の結果、当第3四半期連結会計期間の連結業績は、売上高は63億46百万円（前年同四半期比2.6%増）、営業損失は47百万円（前年同四半期1億35百万円の営業損失）、経常損失は為替差損1億79百万円を計上したこと等より3億29百万円（前年同四半期2億62百万円の経常損失）、四半期純損失は3億8百万円（前年同四半期9億57百万円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

日本

日本国内における中古車買取・販売事業につきましては、当第3四半期連結会計期間末の「アップル」フランチャイズ店舗数は205店（前連結会計年度末は202店舗）となりました。また、東南アジア諸国に対する中古車輸出事業は、長引く円高の影響を緩和するべく、三国間取引により為替変動の影響を低減させる取り組みを一部行っているものの、昨年11月以降1ドルあたり80円前後で推移していた為替相場が、本年7月以降さらに円高が進み、1ドル当たり77円前後で推移していることから、当第3四半期連結会計期間における日本の売上高は22億53百万円、営業損失は59百万円となりました。

中国

中国自動車工業協会が平成23年10月13日に公表した1～9月の新車販売台数累計は、小型車減税の打ち切り、ガソリン価格の上昇、北京市など主要都市で導入されたナンバープレートの発給枚数制限等の影響で、前年同期比3.6%増の1,363万3,500台と伸び率は前年比32%増だった昨年と比べ急減速したもの、米国の販売台数を約300万台上回り、世界1位の市場を維持しております。さらに、当社の主力商品であるメルセデスベンツについては、ダイムラーが平成23年10月11日に公表した中国国内の1～9月の新車販売台数累計は前年同期比32.8%増の13万5,500台となり、高級乗用車だけでなく高級腕時計などの他の分野でも明らかのように中国の富裕層の高級品購買意欲は衰えていないことから、販売台数は堅調に増加しております。

当第3四半期連結会計期間における中国の売上高は40億92百万円、営業利益は12百万円となりました。

(2) 財政状態

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末（平成22年12月末）と比較して7億32百万円減少して141億33百万円となりました。

これは、受取手形及び売掛金が3億99百万円、商品及び製品が2億38百万円減少したことによるものであります。負債は、前連結会計年度末と比較して3億55百万円減少して83億20百万円となりました。

これは、支払手形及び買掛金が6億16百万円減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して3億77百万円減少して58億13百万円となり、自己資本比率は35.3%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前四半期末（平成22年12月末）と比較して1億88百万円増加して17億18百万円となりました。当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純損失2億55百万円となりましたが、売掛金の減少による収入2億50百万円、たな卸資産の減少による収入1億28百万円、未収入金の減少による収入1億32百万円があったことなどから、1億1百万円の収入（前年同四半期は11億77百万円の収入）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

定期預金の払戻による収入23億39百万円、定期預金の預入による支出25億58百万円、有形固定資産の取得による支出3億77百万円があったことなどから、4億25百万円の支出（前年同四半期は25億85百万円の支出）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

短期借入金の増加による収入2億42百万円、長期借入金の増加による収入4億60百万円があったことなどから、4億71百万円の収入（前年同四半期は3億43百万円の収入）となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	216,000
計	216,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	124,614	124,614	東京証券取引所 (マザーズ市場)	当社は単元株制度を 採用しておりませ ん。
計	124,614	124,614		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日		124,614		4,816,489		165,687

(6)【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式			
議決権制限株式（自己株式等）			
議決権制限株式（その他）			
完全議決権株式（自己株式等）			
完全議決権株式（その他）	普通株式 124,614	124,614	
単元未満株式			
発行済株式総数	124,614		
総株主の議決権		124,614	

（注）「完全議決権株式（その他）」の欄には証券保管振替機構名義の株式が1株（議決権数1個）含まれております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成23年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高（円）	10,500	14,980	13,300	13,750	11,100	9,450	9,290	8,360	8,640
最低（円）	8,770	9,030	7,000	8,960	9,150	8,700	7,990	7,000	6,220

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズ市場におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までの役員の異動は、以下のとおりであります。

(1) 役員の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
常務取締役	経営企画室長	代表取締役	経営企画室長	津田知明	平成23年4月1日
取締役	管理本部長	代表取締役	管理本部長	近藤則明	平成23年4月1日

(2) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
常務取締役	経営企画室長	津田知明	平成23年11月3日

第5【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、霞が関監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,921,144	5,676,801
受取手形及び売掛金	4,298,961	4,698,456
商品及び製品	2,155,447	2,393,717
原材料及び貯蔵品	2,794	1,294
前渡金	306,249	236,114
その他	1,070,175	1,278,862
貸倒引当金	2,115,722	1,965,481
流動資産合計	11,639,049	12,319,763
固定資産		
有形固定資産	1 739,268	1 638,698
無形固定資産	317,805	347,262
投資その他の資産	2 1,437,629	2 1,559,642
固定資産合計	2,494,703	2,545,603
繰延資産		
繰延資産	-	960
資産合計	14,133,752	14,866,327
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,136,582	1,752,843
短期借入金	5,731,262	5,659,980
未払法人税等	60,348	88,672
その他	984,203	1,036,186
流動負債合計	7,912,397	8,537,683
固定負債		
長期借入金	363,972	109,128
退職給付引当金	1,683	1,796
その他	42,622	27,639
固定負債合計	408,277	138,563
負債合計	8,320,674	8,676,247
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,816,489	4,816,489
資本剰余金	165,687	2,078,897
利益剰余金	13,135	1,425,683
株主資本合計	4,969,041	5,469,703
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	51,318	87,300
為替換算調整勘定	26,075	47,813
評価・換算差額等合計	25,243	39,486
少数株主持分	818,793	680,890
純資産合計	5,813,078	6,190,079
負債純資産合計	14,133,752	14,866,327

(2) 【四半期連結損益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
売上高	27,295,435	21,445,114
売上原価	24,345,578	19,378,974
売上総利益	2,949,857	2,066,140
販売費及び一般管理費	2,475,710	1,878,840
営業利益	474,146	187,300
営業外収益		
受取利息	12,829	8,708
受取手数料	24,002	4,858
保険代行収入	30,207	26,643
その他	31,289	42,333
営業外収益合計	98,328	82,543
営業外費用		
支払利息	155,530	196,402
為替差損	53,476	222,916
貸倒引当金繰入額	-	19,000
その他	66,592	47,052
営業外費用合計	275,598	485,371
経常利益又は経常損失()	296,876	215,527
特別利益		
固定資産売却益	279	1,402
関係会社株式売却益	-	10,000
特別利益合計	279	11,402
特別損失		
固定資産売却損	-	17,775
減損損失	525,009	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	8,045
子会社株式売却損	-	23,278
その他	106,210	2,013
特別損失合計	631,219	51,113
税金等調整前四半期純損失()	334,064	255,238
法人税等	256,558	149,755
少数株主損益調整前四半期純損失()	-	404,994
少数株主利益	597,214	89,417
四半期純損失()	1,187,837	494,411

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
売上高	6,185,549	6,346,497
売上原価	5,570,872	5,773,738
売上総利益	614,676	572,759
販売費及び一般管理費	750,036	620,511
営業損失()	135,359	47,752
営業外収益		
受取利息	3,570	1,533
保険代行収入	-	10,636
その他	15,492	16,358
営業外収益合計	19,063	28,527
営業外費用		
支払利息	57,220	72,577
為替差損	42,534	179,193
その他	46,084	58,448
営業外費用合計	145,839	310,220
経常損失()	262,135	329,444
特別利益		
固定資産売却益	6	-
特別利益合計	6	-
特別損失		
固定資産売却損	-	4,846
減損損失	336,724	-
その他	47,659	2,013
特別損失合計	384,384	6,859
税金等調整前四半期純損失()	646,526	336,304
法人税等	12,667	35,841
少数株主損益調整前四半期純損失()	-	372,145
少数株主利益又は少数株主損失()	297,884	63,217
四半期純損失()	957,078	308,928

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	334,064	255,238
減価償却費	119,691	115,389
減損損失	525,009	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	324,483	209,914
退職給付引当金の増減額(は減少)	109	113
受取利息及び受取配当金	13,729	13,208
支払利息	155,530	196,402
為替差損益(は益)	-	169,627
売上債権の増減額(は増加)	1,306,656	250,882
たな卸資産の増減額(は増加)	2,316,680	128,688
仕入債務の増減額(は減少)	1,590,703	543,630
未収入金の増減額(は増加)	1,753,697	132,904
預け金の増減額(は増加)	45,031	3,496
未払金の増減額(は減少)	1,937,720	93,919
その他	18,670	7,804
小計	1,515,152	481,231
利息及び配当金の受取額	31,983	10,887
利息の支払額	146,850	204,586
法人税等の支払額	222,483	185,848
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,177,802	101,683
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,488,777	2,558,118
定期預金の払戻による収入	-	2,339,850
有形固定資産の取得による支出	503,429	377,433
有形固定資産の売却による収入	143,398	154,012
投資有価証券の取得による支出	300,002	-
子会社株式の追加取得による支出	425,361	-
その他	11,523	16,311
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,585,695	425,377
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	553,317	242,702
長期借入れによる収入	20,000	460,000
長期借入金の返済による支出	159,704	161,452
社債の償還による支出	60,000	60,000
配当金の支払額	1,152	-
リース債務の返済による支出	9,032	9,428
その他	-	289
財務活動によるキャッシュ・フロー	343,428	471,531
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,228	41,014
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,065,693	188,852
現金及び現金同等物の期首残高	3,253,584	1,529,628
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2 353,580	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 1,834,309	1 1,718,481

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
1. 連結の範囲に関する事項の変更	(1) 連結範囲の変更 第1四半期連結会計期間において、CARLYNA TRADING COMPANY LIMITEDの株式を売却したため、連結の範囲から除外しております。 (2) 変更後の連結子会社の数 17社
2. 会計処理基準に関する事項の変更	資産除去債務に関する会計基準の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用しております。 これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益は1,146千円減少し、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ1,146千円、9,191千円増加しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は25,704千円であります。

【表示方法の変更】

当第3四半期連結累計期間

(自 平成23年1月1日
至 平成23年9月30日)

(四半期連結損益計算書)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失」の科目を表示しております。

前第3四半期連結累計期間において、特別損失の「その他」に含めて表示しておりました「固定資産売却損」は、特別損失総額の100分の20を超えたため、当第3四半期連結累計期間では区分掲記することとしました。なお、前第3四半期累計期間の特別損失の「その他」に含まれる「固定資産売却損」は9,620千円であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書)

前第3四半期連結累計期間において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しておりました「為替差損益」は重要性が増加したため、当第3四半期連結累計期間より区分掲記することとしました。なお、前第3四半期連結累計期間の「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれる「為替差損益」は86,104千円であります。

当第3四半期連結会計期間

(自 平成23年7月1日
至 平成23年9月30日)

(四半期連結損益計算書)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失」の科目を表示しております。

前第3四半期連結会計期間において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「保険代行収入」は、営業外収益総額の100分の20を超えたため、当第3四半期連結会計期間では区分掲記することとしました。なお、前第3四半期会計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「保険代行収入」は2,807千円であります。

前第3四半期連結会計期間において、特別損失の「その他」に含めて表示しておりました「固定資産売却損」は、特別損失総額の100分の20を超えたため、当第3四半期連結会計期間では区分掲記することとしました。なお、前第3四半期会計期間の特別損失の「その他」に含まれる「固定資産売却損」は4,186千円であります。

【簡便な会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
1. たな卸資産の評価方法	当第3四半期連結会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前連結会計年度末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算出しております。 また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。
2. 固定資産の減価償却費の算定方法	定率法を採用している固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。
3. 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合に、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法を適用しております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を使用できない場合には、税引前四半期純利益に法定実効税率を乗じて計算しております。 なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年12月31日)
1.有形固定資産の減価償却累計額 394,097千円	1.有形固定資産の減価償却累計額 358,767千円
2.資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 934,350千円	2.資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 863,085千円
3.輸出荷為替手形割引高 57,460千円	3.輸出荷為替手形割引高 105,675千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
給料手当 426,091千円	給料手当 311,577千円
貸倒引当金繰入額 420,970	貸倒引当金繰入額 228,482

前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
給料手当 118,748千円	給料手当 97,698千円
貸倒引当金繰入額 250,370	貸倒引当金繰入額 43,049

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)												
<p>1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在) (千円)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">5,532,226</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3か月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">3,697,916</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,834,309</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	5,532,226	預入期間が3か月を超える定期預金	3,697,916	現金及び現金同等物	1,834,309	<p>1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在) (千円)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">5,921,144</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3か月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">4,202,662</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,718,481</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	5,921,144	預入期間が3か月を超える定期預金	4,202,662	現金及び現金同等物	1,718,481
現金及び預金勘定	5,532,226												
預入期間が3か月を超える定期預金	3,697,916												
現金及び現金同等物	1,834,309												
現金及び預金勘定	5,921,144												
預入期間が3か月を超える定期預金	4,202,662												
現金及び現金同等物	1,718,481												
<p>2 当第3四半期連結累計期間においてBEST VENTURE LIMITEDを持分法適用の範囲に含め、連結の範囲から除外したことにより減少した資産及び負債の内訳は次のとおりであります。 (千円)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">流動資産</td> <td style="text-align: right;">8,150,736</td> </tr> <tr> <td>固定資産</td> <td style="text-align: right;">907,064</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">9,057,800</td> </tr> <tr> <td>流動負債</td> <td style="text-align: right;">5,894,599</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">5,894,599</td> </tr> </table> <p>なお、この連結範囲の適用除外により、現金及び現金同等物は、353,580千円減少しております。</p>	流動資産	8,150,736	固定資産	907,064	資産合計	9,057,800	流動負債	5,894,599	負債合計	5,894,599			
流動資産	8,150,736												
固定資産	907,064												
資産合計	9,057,800												
流動負債	5,894,599												
負債合計	5,894,599												

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成23年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 124,614株

2. 自己株式の種類及び株式数

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

5. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成23年3月30日開催の第16回定時株主総会の決議に基づき、平成23年3月30日をもって下記の通り資本準備金の減少及び剰余金の処分を行いました。

資本準備金の額の減少及び剰余金の処分の内容

(1) 会社法第448条第1項の規定に基づき、平成22年12月末時点の資本準備金を減少させ、その他資本剰余金に振り替えました。

減少した準備金の額	
資本準備金	1,913,209,641円
増加した剰余金の額	
その他資本剰余金	1,913,209,641円

(2) 会社法第452条の規定に基づき、上記資本準備金振替後のその他資本剰余金にて繰越利益剰余金の欠損を填補致しました。

減少した剰余金の額	
その他資本剰余金	1,913,209,641円
増加した剰余金の額	
繰越利益剰余金	1,913,209,641円

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)及び前第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

自動車販売関連事業の売上高及び営業利益の金額は、全セグメントの売上高の合計及び営業利益の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

	日本 (千円)	中華人民 共和国 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	3,044,781	3,128,488	12,279	6,185,549		6,185,549
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	53,428	44,566		97,995	(97,995)	
計	3,098,210	3,173,054	12,279	6,283,544	(97,995)	6,185,549
営業利益又は営業損失()	136,700	130,662	15,682	21,720	(113,639)	135,359

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. その他に属する地域の内訳は、以下のとおりです。

その他.....香港特別行政区、タイ王国

3. 所在地区分の変更

従来、「香港特別行政区」としていた所在地区分の重要性が乏しくなったこと、また前連結会計年度において新たに連結範囲に含めたタイ王国の子会社CARLYNA TRADING COMPANY LIMITEDの経営成績が当第1四半期連結累計期間より反映されることに伴い、これらの所在地を「その他」として区分表示することに変更しました。

前第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

	日本 (千円)	中華人民 共和国 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	12,980,777	14,224,897	89,760	27,295,435		27,295,435
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	320,671	97,396		418,067	(418,067)	
計	13,301,448	14,322,293	89,760	27,713,503	(418,067)	27,295,435
営業利益又は営業損失()	159,434	873,932	123,241	910,125	(435,979)	474,146

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. その他に属する地域の内訳は、以下のとおりです。

その他.....香港特別行政区、タイ王国

3. 所在地区分の変更

従来、「香港特別行政区」としていた所在地区分の重要性が乏しくなったこと、また前連結会計年度において新たに連結範囲に含めたタイ王国の子会社CARLYNA TRADING COMPANY LIMITEDの経営成績が当第1四半期連結累計期間より反映されることに伴い、これらの所在地を「その他」として区分表示することに変更いたしました。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間（自平成22年7月1日至平成22年9月30日）

	中華人民 共和国	マレーシア	タイ王国	インドネシ ア共和国	シンガポー ル共和国	その他の 地域	計
海外売上高 （千円）	3,129,716	721,820	711,675	457,399	257,902	108,683	5,387,197
連結売上高 （千円）							6,185,549
連結売上高 に占める海 外売上高の 割合（％）	50.6	11.7	11.5	7.4	4.2	1.7	87.1

（注）1．国又は地域の区分は、地理的近接度により区分しております。

2．本邦以外の区分に属する主な国または地域

その他の地域……ブルネイ・ダルサラーム国、アラブ首長国連邦、ミャンマー連邦

3．海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

4．従来、区分掲記しておりました「香港特別行政区」は、当連結累計期間において当該セグメントの海外売上高の重要性がなくなったため、「その他の地域」として一括して記載しております。なお、当連結会計年度における当該セグメントの海外売上高、連結売上高に占める海外売上高の割合はそれぞれ23,189千円、0.4%であります。

前第3四半期連結累計期間（自平成22年1月1日至平成22年9月30日）

	中華人民 共和国	マレーシア	タイ王国	インドネシ ア共和国	シンガポー ル共和国	その他の 地域	計
海外売上高 （千円）	14,233,873	3,238,346	2,527,090	4,067,166	342,099	423,224	24,831,801
連結売上高 （千円）							27,295,435
連結売上高 に占める海 外売上高の 割合（％）	52.1	11.9	9.3	14.9	1.3	1.5	91.0

（注）1．国又は地域の区分は、地理的近接度により区分しております。

2．本邦以外の区分に属する主な国または地域

その他の地域……ブルネイ・ダルサラーム国、アラブ首長国連邦、ミャンマー連邦

3．海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

4．従来、区分掲記しておりました「香港特別行政区」は、当連結累計期間において当該セグメントの海外売上高の重要性がなくなったため、「その他の地域」として一括して記載しております。なお、当連結会計年度における当該セグメントの海外売上高、連結売上高に占める海外売上高の割合はそれぞれ35,580千円、0.1%であります。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループの事業である自動車販売関連事業のうち「日本」、「中国」を報告セグメントとして包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

「日本」は、国内一般ユーザー等から買取及び国内オートオークションから仕入れた中古車を海外の輸出業者へ販売をしております。また、国内一般ユーザー等から中古車の買取を行い、国内オートオークション、中古車販売業者への販売ならびに中古車買取店のフランチャイズビジネスの展開を行っております。「中国」は、中華人民共和国において、新車販売事業を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成23年1月1日 至平成23年9月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント		合計
	日本	中国	
売上高			
外部顧客への売上高	7,582,601	13,862,513	21,445,114
セグメント間の内部売上高又は振替高			
計	7,582,601	13,862,513	21,445,114
セグメント利益又は損失（ ）	202,586	389,887	187,300

当第3四半期連結会計期間（自平成23年7月1日 至平成23年9月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント		合計
	日本	中国	
売上高			
外部顧客への売上高	2,253,994	4,092,503	6,346,497
セグメント間の内部売上高又は振替高			
計	2,253,994	4,092,503	6,346,497
セグメント利益又は損失（ ）	59,886	12,133	47,752

（注）セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（追加情報）

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

（金融商品関係）

前連結会計年度末日と比べて著しい変動がないため、記載しておりません。

（有価証券関係）

前連結会計年度末日と比べて著しい変動がないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度末日と比べて著しい変動がないため、記載しておりません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度末日と比べて著しい変動がないため、記載しておりません。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度末日と比べて著しい変動がないため、記載しておりません。

(1 株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	前連結会計年度末 (平成22年12月31日)
1株当たり純資産額 40,078.03円	1株当たり純資産額 44,210.04円

2. 1株当たり四半期純損失金額

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額 9,532.13円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純損失金額 3,967.54円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額		
四半期純損失() (千円)	1,187,837	494,411
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失() (千円)	1,187,837	494,411
期中平均株式数(株)	124,614	124,614

前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額 7,680.35円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純損失金額 2,479.08円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額		
四半期純損失() (千円)	957,078	308,928
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失() (千円)	957,078	308,928
期中平均株式数(株)	124,614	124,614

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年11月15日

アップルインターナショナル株式会社
取締役会 御中

霞が関監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 劔持 俊夫 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 船井 宏昌 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアップルインターナショナル株式会社の平成22年1月1日から平成22年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アップルインターナショナル株式会社及び連結子会社の平成22年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月14日

アップルインターナショナル株式会社
取締役会 御中

霞が関監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 遠藤 今朝夫 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 船井 宏昌 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアップルインターナショナル株式会社の平成23年1月1日から平成23年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年1月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アップルインターナショナル株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

追記情報

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載されているとおり、会社は第1四半期連結会計期間より「資産除去債務に関する会計基準」及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」を適用している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。